ブラウン

2本のアルトリコーダーのための第3組曲

CDの演奏者

長谷川圭子（リコーダー）

石田誠司（リコーダー）

J. D. Braun

Suite No. 3

for 2 Alto Recorders

Players on CD

Recorder: Keiko Hasegawa

Recorder: Seiji Ishida

◆解説◆

前奏曲(プレリュード＝Prélude)とそれに続く４つの曲から成っています。ごく初級のかたには、Menuet → Prélude の順で始め、あとは気に入った曲に進んでください。

Prélude　難易度 B1

なだらかな動きで歌っていきます。

2小節目からなどにある + の符号は「t.」から来ていて「トリル」です。

トリルとは、「ひとつ上の音（つまり「レのトリル」の場合ならミの音）とすばやく何度か交替して演奏する」という意味です。以下、トリルについての解説が多くなってしまいますが、初級のかたはトリルをせずに練習し、十分に慣れてから、少しずつトリルもこころみてください。

さて、ここでは「レ」にトリルがついていますから、「レーーー」のかわりに「ミレミレミレーー」ぐらいで演奏します。この間、もちろんタンギング（tuと発声するつもりで息を入れる）は最初のミのときにするだけで、途中は息を入れ続けます。

なお、バロック時代の曲では、このようにトリルを「ひとつ上の音」（ここの例では「ミ」）から開始するのが原則です。

Rec. Ｉの３小節目などにある「ミのトリル」は「ファミファミー」などと演奏しますが、「ミ」の音に[023]という「替え指」を使ってください。（「指番号」については巻末の運指表をご参照ください。）

Rec. Ｉの７小節目などにある「ソのトリル」は、「ラソラソー」（ここのラは「高いラ」です）ぐらいに演奏しますが、正規指づかいでは演奏できないので、特別に[2345]と[245]の交替で演奏してください。

Rec. IIの19小節に出てくる「ラのトリル」は、「シラシラシラーーー」のように演奏しますが、ここは、

[012356]→[012345]→[01235]→[12345]→[1235]→[12345]

という指づかいで。つまりはトリルの途中の「シ」の音を、正規の指づかいから６指（右手薬指）を省いた指づかいですませようというのです。こうしますと、「シ」の音は少し高めになってしまうのですが、バロック時代には、トリルの場合にはそういう感じがむしろ好まれたそうです。

後半にブレスの忙しい箇所（八分音符の合間にブレスする箇所）があるのですが、「すばやく浅くブレスし、次が出遅れたら2拍ぐらいの間に追いつくようにする」か、「ブレス寸前の音を諦めてブレスする」か、どちらかで対処してください。

Musette en Rondeau　難易度 B2

この曲は少し速いうえに長くてやや大変ですので、初級者のかたは後回しにする方がよいでしょう。長いので息が苦しくなりやすいのも難点です。「たくさんの箇所で、すばやく浅く（つまり少量の）ブレス」がコツです。

ミュゼットは農民の楽器から発達した田園趣味の楽器名で、この楽器のための曲という意味から、素朴な感じの舞曲の名として使われることもあります。「ロンド」は、主要主題（ロンド主題）の部分と副主題の部分（２種類ぐらい）を交互に奏する形式の曲です。この曲の場合、ロンド主題は12小節目までで示され、リピート記号により繰り返されます。13小節目から28小節目までが第一の副主題部分、41小節目からが第二副主題部分とみられます。

「ダ・カーポ・アル・フィーネ」の指定により、おしまいまで行ったら曲の最初に戻って、*Fine*のところ（12小節）で終わります。

さて、Rec. Iの4小節目、4拍目の四分音符の「ド」の左肩に、小さい八分音符で「レ」の音が書いてあります。このような小さい音符を「前打音（ぜんだ）」といい、バロック時代の曲ではだいたい親音（ここではド）の時間の中に含めて演奏します。ここでは、ふつうの八分音符のレと八分音符のドとして演奏してみましょう。

Rec. IIの16小節や20小節には「低いファ」の音が出てきます。これはとくに初級のうちは失敗しやすい音ですが、自然な力の抜けた指で指孔をふさぎ、息やタンギングが強すぎないように気をつけて、よく練習してみてください。

21小節あたりから始まるジグザグな進行は、指に余分な力が入ってばたばたしてしまいやすいところです。ごくゆっくりのテンポでていねいに練習を重ねてください。

Rec. Iの22～23小節や26～27小節の、タイのかかった音は長さを間違えやすいので、よく数えるとともに、最初は「タイ」をとり去って練習してみるのもよいでしょう。

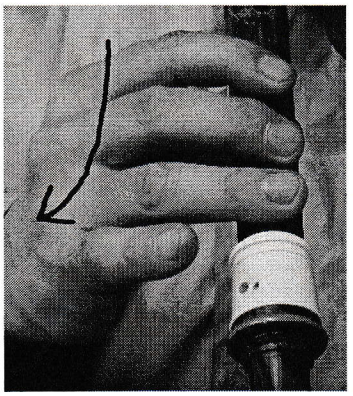
45小節以下にも「ジグザグ音型」がいくつも出てきますので、注意して練習してください。

Gavotte　難易度 B2

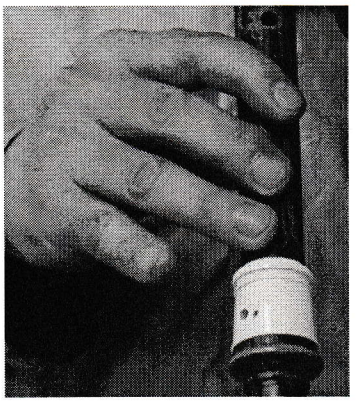
ガヴォットは2拍子か4拍子の舞曲です。弱拍（小節の途中）から始まるのも特徴です。

さて、1ere Gavotte（第1ガヴォット）は比較的問題がないのですが、♭が3つもついた「ハ短調」の2e Gavotte（第2ガヴォット）には、少し難しいところがあります。

まず、Rec. IIの1小節目に出てくる「低いラ♭」（運指表では「低いソ♯」として載っています）ですが、右手薬指（6指）を「半とじ」にすることになります。この指づかいのためには、薬指を曲げることだけに頼って何とかしようとするのではなく、手の甲を少し回すようにしてみてください。（右の写真を参考にしてください。）



↓



さて、しかも、この「低いラ♭」にトリルがついています。まずはトリルなしで十分に慣れてから、挑戦してみましょう。これは正規指づかいで押し通すのは無理なので、「低いラ♭」の指づかいで右手中指（5指）を開閉してください。このさい、「シ♭」の音から始めるとすれば、最初だけは正規指づかいの「シ♭」とするのが理想です。しかし、これはなかなか難しいので、最初から[12346̸]の指づかいにしておいてもいいでしょう。（指づかい数字にスラッシュがかかっているのは「半ふさぎ」の意味です。）

ところで、「ミ♭」がRec. I にたくさん、Rec. II にも少し出てきます。これは0134というのが最もふつうの指づかいですが、少し不自然な指の形であるうえに、前後の音との移りかわりのときにややこしい指の動き（クロスフィンガリング）が起きやすいので、難しいのです。ゆっくりとていねいに練習してください。

Rec. IIの12小節目やRec. Iの15小節目には「レのトリル」が出てきます。調号のはたらきによりミはすべて「ミ♭」ですから、「ミ♭」と「レ」の交替で演奏することになります。ただし、正規指づかいだけではとうてい演奏できません。ここでは、

[0134] →[012] →[01] →[012] →[01] →[012]

という指づかいをこころみましょう。これはつまり、途中から「ミ♭」のかわりに「ミ」を用いるわけですが、「バロック的なトリル」としてよく用いられています。

第２ガヴォットのあと、第１ガヴォットに戻り、今度は繰り返し記号を無視して演奏して、終わります。

Gigue “Le Coucou” 難易度 B3

ジークは８分の６拍子または８分の１２拍子の速い舞曲です。「カッコウ」という副題が示すように、カッコウの鳴き声を模したようなモチーフが何度も出てきます。

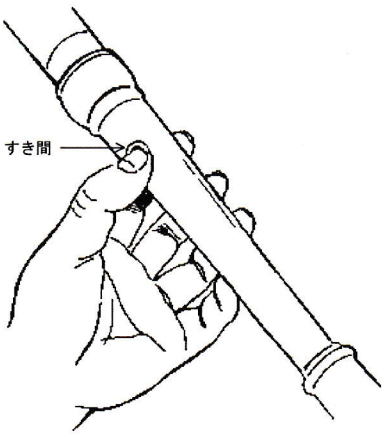
さて、３つでひとまとめ（一拍）になる八分音符のうち、最初の二つをスラーで結んであるのはジークによくある仕方で、これがジークのリズム感をつくり出します。

Menuet 難易度 B1

メヌエットは比較的テンポの速い３拍子の舞曲です。

短いということもあって、全５曲の中でいちばん取り組みやすいと思います。初級のかたは、最初にこの曲の Rec. II、そしてRec. I、という順で挑戦するのがよいでしょう。その場合、「トリル」（＋の記号）は、とりあえず無視して練習してください。（トリルについてはPrélude の解説を参照してください。）

Rec. IIにはミとファの交替する箇所がたくさんありますが、このとき１指（左手人差指）と２指（左手中指）が入れ替わるような動きになります（クロスフィンガリング）。これは今後のためにもよく習熟する必要がありますので、この曲で十分に慣れてください。



初級のかたにとってはRec. Iに出てくる「高いド」の音も少し練習がいるかも知れません。０指（左手親指）を少し曲げて、爪の先が指孔のふちに当たるような感じにして、ごくわずかのすき間をつくります（サミング＝右図）。これは何度も出てくる「高いラ」のときにも行います。

０指については「開放」「ふさぐ」「サミング」の３つが、いつでもスムーズに交替できることが大切なので、これからも機会あるごとに気をつけて練習してください。

曲の難易度表示ついて

１曲ごと・ソナタの楽章ごとに、A1～C3の難易度表示を行いました。これはRJP独自の基準による「指回り難易度」の表示です。

A1　A2　B1　B2　B3　C1　C2　C3 の８段階があります。

A1　やA2は「初級」というより「初心者」のレベル。B1 ～B2が初級、B3が中級、C1～C3が上級レベルというのが一応の目安です。しかし、C1以上が表示された速くてやや難しい曲の場合、付属ＣＤに練習用の遅いテンポの伴奏も極力収録してありますから、中級者でも十分に取り組んでいただけます。そして、良い曲は非常に遅く演奏してもやはり楽しさがあるものです。「あまり遅いテンポではつまらないのでは」などと心配なさらず、ぜひ挑戦してみてください。